

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス すまいる・ツリー			
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日 ～ 2025年 10月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日 ～ 2025年 10月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 19日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年間計画の元、充実した幅広い活動を実施しているので、様々な経験ができる。	運動、音楽、おやつ作り、工作、避難訓練、買物練習、レクリエーション等の活動の他に、ハロウィン、クリスマス、節分等の季節の行事、お誕生日会、合同イベントといった活動を実施している。	活動内容がマンネリ化しないように、活動ごとに振り返り、検討を行い、次回に向けて必要な修正を行っていく。又、年度ごと、その日のメンバーにより、個々に合わせた環境やねらいの設定を行っていく。
2	部屋が2つのスペースに分かれている。加えて体育館があるので、活動に合わせたスペースの選択、使用ができる。	その日の利用者同士の相性や年齢等を考慮し、2グループに分かれて活動を行っている。又、活動内容に合わせて、支援室や体育館を使用している。 活動によっては合同で行ったり、利用者が自由に部屋を行き来する事ができる時間帯も多く、職員全員がそれぞれの利用者に関わる機会があるので、利用者の好みや特性などを職員全員で共有する事ができる。	引き続き、利用者の状況や課題に合わせて、グループや部屋の使用について見直しや修正を行い、安心して来所し過ごせるようにしていく。
3	高校卒業後を想定した社会性が身に付く。	中高生対象の放課後デイサービスなので、身支度、係活動、報告等の経験を日々の活動の中で積むことが出来る。 その日の自分の役割を始める会で確認し、出来たら報告を行う事をルーティン化している。個別で視覚ツールの使用、職員のサポートを介しながら取り組んでいる。	係活動の取り組みの様子を職員間で共有し、必要に応じて項目や内容についての見直しをする。職員の声掛けの回数が減るように視覚ツールなどを使用し、見守りやサポートをしていくことで自立へ向けた支援を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	新規利用児の受け入れが難しい	多くの見学や新規申し込みの連絡を頂くが、定員に空きがない為お断りする事が多い。年度によって卒業する人数と新規利用児のバランスが合わず、希望者全員を受け入れる事が難しい。	新規利用希望者の方には待機登録をしていただき、翌年度の空き状況に応じて連絡をしていく。
2	施設のバリアフリー化が難しい	エレベーター設備がない為、玄関から2階の支援室までの移動は階段が必須となる。手すりは付いているが昇降が大変な事がある。	階段の昇降時に個別でサポートが必要な利用者には職員がマンツーマンで付き、危険のないように補助している。
3			